

地域医療

あがの市かわら版

第3号

現場では基礎工事が順調に進捗
全11工区に分けて地下ピット部分を施工中

新病院の建設現場では、地下ピットの基礎工事が順調に進捗しています。地下ピットというのは、床下に設けられる空間のことです。ピットの中には給排水管や、電気設備の配線類が設けられるほか、排水を一時的に溜めておくための水槽などがこの空間に設けられます。

基礎工事は、全部で11の工区に分けて施工しており、施工の流れとしては、①土砂掘削、②床付け面の整正、③捨てコンクリートの打設（墨出しを行うのに必要な作業床のことで構造的な要素はありません。）、④墨出し作業、⑤地足場の組立て、⑥基礎の配筋、⑦型枠の設置、⑧基礎コンクリート打設、といった流れで、工区毎で作業が段階的に推移しながら計画的に行われています。



8月の猛暑の中で、暑さに耐えながらの作業が続く。（基礎工事）

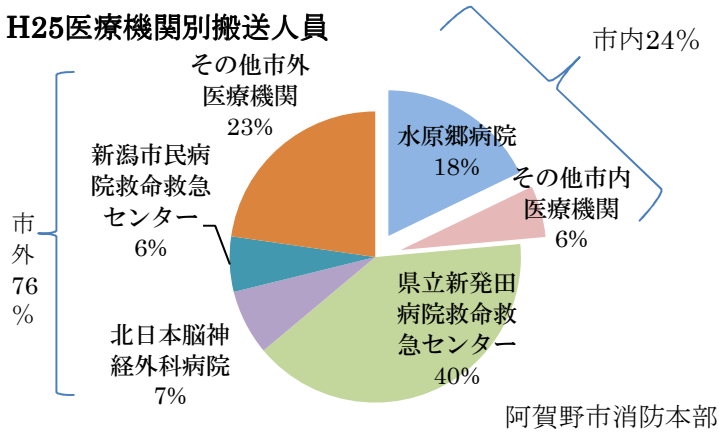
なお、9月上旬からは、11工区中で最も工事が先行している第1工区で、1階床面の製作に着手する予定です。建築工事としての出来高は、先月末の段階で12・60%となっています。



水原まつり：ザ・灯籠来舞、他 8/24、瓢湖大花火大会 8/25

水原郷病院 7月から
新発田地区『病院群輪番制』に参加

水原郷病院では、病床稼働率が、約66%と低いことから、病床の再編を検討し、7月から「地域包括ケア病棟」を40床立ち上げることにしました。この病棟を標榜するには、救急告示をしているか、または二次救急医療機関として「病院群輪番制」に参加していることが条件となります。



そのため、救急告示は取り下げたままです、この7月から、輪番制に参加することになりました。今後、医師が増加し、体制が整った段階で、救急告示を復活させる計画です。告示取り下げ以前は、救急搬送の8割を受けていましたが、現在は、日中を中心に2割弱にとどまっています。

第一回

地域医療連携推進会議開催

地域包括ケアシステムの構築をめざして

阿賀野市では、7月3日に、年間問題に向けて、水原郷病院院長をはじめ、医師会、歯科医師会、薬剤師会、社会福祉協議会、介護分野等の代表者を委員に委嘱して、初めての「地域医療連携推進会議」を開催しました。地域包括ケアシステムを構築するためにも、医療、保健、福祉介護の連携は、重要なポイントとなります。そこで、今回は、この会議の主旨と位置付け、また市の高齢者の実態などについて共通の認識を図りました。



新病院への熱い期待とエール

市民対話集会に約220人

「地域医療を守る会」が主催して、7月の土曜日（5日、12日、19日、26日）に4地区に出向いての「新病院に向けた市民対話集会」が開催され、合わせて約220人の市民が参加しました。

市民と病院の職員組合が中心となった「地域医療をよくする会」が、市民の期待に応えられる病院を目指した活動の一環として開催したものです。

当日は、病院、行政と市民の代表が発表し、その後、活発な意見交換が行われ、医師不足に対する不安の声とともに、医師やスタッフに対する感謝や、新病院を楽しみにしているといった期待の声を多くいただきました。

